

を得たり、此物は m.p. 185—186° の無色粉末をなし、對應するオキサイド又はクロロアルシンに硫化水素の作用によりても製せらる、又鹽素の作用によりてトリ、クロロイドとなり次で對應する酸に變ず、トリ、フェニルアルシンサルファイド及びトリ、pトリルアルシンサルファイドは昇汞と結合して夫々 $(C_6H_5)_3As \cdot S \cdot HgCl_2$ m.p. 239—241° 及び $(C_7H_7)_3As \cdot S \cdot HgCl_2$ m.p. 227—229° の水銀鹽を生成す。

砒素の有機化合物に就て (第五報)

三ニトロ 四オキシ フェニルアルシン酸の電解還元

松 宮 馨 中 田 久 和

(京大理學部要 第十卷 一九九頁)

抄 録

サルファルサン關係の化合物を純粹に得る目的を以て題記の物質の酸性溶液に於ける電解還元を試み、各種實驗條件の反應に及ぼす影響を研究せり。その結果陰極物質及び酸の濃度の影響最大なるを認む。鉛、鉛アマルガム又は水銀を陰極とし稀酸性液を用ふる時は三アミノ 四オキシ フェニルアルシンを生ず、他の物質を極とする時はアルシン酸は容易に還元を受けず。最適條件：— 陰極 水銀、陰極液 2 規定鹽酸、溫度 25°、電流密度 0.28 amp./sq. cm., 電氣量過剰なる時は分解を起し砒化水素の發生を見る、最大收量 94.8%。尙アルシンの生成は中間體アルセノ化合物を経て進むものに非ざる事を實驗的に證明す。然るに鹽酸濃度 四、七規定以上なる時はダイアミノデオキシアルセノベンゼンを生じ電解液中に鹽酸鹽として沈澱し來る。水溶液に代ふるにエチル又はメチルアルコールを以てするも同結果を得。硫酸溶液を用ふる時は常にアルシンを生じアルセノ化合物の生成を見ず。